

防府市の中関小で17日、東日本大震災で被災した宮城県南三陸町の伊藤俊さん(47)から当時の体験を聞くオンライン講演会があった。6年生約130人が命や防災の大切さについて考えた。

伊藤さんは同町のホテルで勤務中に被災した。利用客を避難させ、避難所を運営した。「電気は1カ月、水道は4カ月通らず、救援物資のペットボトル1本も貴重だった。多くの人の支えで今がある」。自宅は津波が押し寄せ天井に冷蔵庫が突き刺さった。当時の写真を見せると児童は驚きの声を上げた。

当時0歳の娘のミルクやお

大震災「心の備えも大切」

宮城の被災者 防府の小学生に講演

オンラインで伊藤さんの体験を聞く児童



むつも不足し「焦って、救援物資をもらう時に早くよこせ」と言ってしまった。物はもちろん、心を備えることも大切」と呼びかけた。現在は被災地を回るバスで体験を語る活動をしており「現地に足を運び学んでほしい。自分ごととして考え、命を守って」と求めた。

日本赤十字社宮城県支部の主催で、阪神大震災の日に合わせて中関小が講演を申し込んだ。村田篤哉さん(12)は「震災後の生活にも備えが必要だと感じた。伊藤さんの体験を家族に伝え、いつか南三陸町に行きたい」と話していた。

(山下美波)

「防災学習
JRCオンライン語り部
LIVE2022」

令和5年1月18日
中国新聞